

技の肖像



オーナー兼デザイナーの熊谷伸彦さん。開業当初からコツコツ集めたミシンがずらりと並ぶ

工業系職種では日本初の快挙 宮城県工業高校の生徒が技能五輪国際大会に出場

8月22日から27日にかけて、ロシアで開催された第45回技能五輪国際大会の「業務用ITソフトウェア・ソリューションズ」職種に、宮城県工業高等学校情報技術科3年の菅原敏夫さんが出場した。

競技では、ビジネスで使用するデータベースとソフトウェアのプログラミングや、構築したシステムのプレゼンテーションの技術を競う。国際大会に高校生が日本代表として派遣されるのは、建築や機械など工業系職種では初となる。

菅原さんは、昨年8月に金沢市で行われた、全国の職業能力開発大学校生や専門学校生、高校生らが技能を競う「若年者ものづくり競技大会」で、1位の成績にあたる金賞を獲得した。



「ものづくりとパソコンが好きだったので、どちらも楽しめるプログラミングに興味を持ちました。」と話す菅原敏夫さん



「情報研究部」に所属し、プログラミングを磨く



ブラジルで行われた親善競技大会の様子

「学びたかったプログラム言語が、競技課題だった」ともあり、部活動の顧問の先生の勧めで競技大会に挑戦することになりました」と菅原さんは話した。

翌月に、技能五輪国際大会の日本代表に選出され、アラブ首長国連邦で行われた技能五輪アジア大会や、ブラジルで開催された親善競技大会に出場した。

国際大会を経験して、競技の序盤で取り組む基本的な作業に弱点を見だし、部活動の時間を使って最終調整を行った。ロシアからの帰国後には、高等専門学校への受験を控えているため、受験勉強も並行して取り組む。「どちらも手を抜くことはできないので、限られた時間でベストを尽くしています」と菅原さんは話した。

高等専門学校への進学の理由について、「今ややっていることを専門的に学べる研究室があり、そこで知識と技術を身に付けたいからです」と語る菅原さん。夢は、もちろん世界で活躍するシステムエンジニアやプログラマーになること。「まずは、世界の舞台で日本の高校生の力を見せつけたい」と意気込みを語った。(7月26日インタビュー)

服飾職人

直線縫い専用、かがり縫い専用、ボタンホール専用……。工房に入ると、一台一台違う役目が割り当てられた17台のミシンが目に見え込む。縫い方や生地素材によって、熊谷伸彦さんが巧みに使い分け、洋服やバッグなどを形にする。

「ほとんどがオーダーメイド品で、お客様に長く愛着を持って使ってもらえるようなアイテムを作っています」

お気に入りの服を再現してほしい。こだわりの一着を仕立てたい。お客様の思いに寄り添い、アイデアを巡らせる。「心地良さを、使いやすいと感じていただくため、こちらから提案することもあります」と話す熊谷さん。デザインから型紙を起こし、生地を選定、断裁、縫製まで手掛ける。

石巻市で生まれた熊谷さんは、高校卒業後に、仙台市内の専門学校で服飾を学んだ。

「縫い」の奥深さの虜になり、学校の近くに部屋を借りて自宅でもミシンを操った。卒業後は、Tシャツのプリント会社に入社。メッシュ状のスクリーンに孔をつくり、孔の部分だけにインクを透過させ、生地文字や図柄を印刷する「シルクスクリーンプリント」の技術を磨いた。

2012年に仙台市内で独立した熊谷さんは、ネームの縫い付けなど小さな仕事でも快く引き受けた。「評判は口コミで広がり、個人事業者からの依頼や百貨店の催事、出展など、徐々に仕事が増えていきました」

熊谷さんは現在、シルクスクリーンプリントやオリジナルのTシャツ・バッグを作るワークショップにも力を注いでいる。「活動を通して多くの人に、服飾デザインやものづくりに興味を持ってもらえたらうれしいですね」と語った。



①熊谷さんが手掛けるオリジナルブランドの数々。心地良さを追求したシンプルなデザインが印象的 ②ミシンにセットする針や糸も使い分けて、あらゆるデザインや縫い方に対応する ③生地専用のインクを使ってTシャツやバッグを作る「NURIKAKI」は、子どもから大人まで楽しめるワークショッププログラムだ ④ミシンを操り生地を縫っていく。「専門学校生の頃から、自分で着る服は自分で作るようになった」と話す

問い合わせ
FIFTEEN FACTORY
仙台市青葉区北山2-1-16 セントラル北山1F
TEL : 022-718-8750
https://fifteenfactory.com/



学園生がものづくりの魅力伝える トヨタ東日本学園 夏休み親子工作教室

7月20日と21日、トヨタ東日本学園(大衡村)で「夏休み親子工作教室」が行われた。同工作教室は、トヨタ自動車東日本株式会社(大衡村)と宮城県が主催する。

7月20日と21日、トヨタ東日本学園(大衡村)で「夏休み親子工作教室」が行われた。同工作教室は、トヨタ自動車東日本株式会社(大衡村)と宮城県が主催する。



完成した恐竜の模型は、頭と尾も運動して動く。児童は興奮した様子で見守っていた

催で、今回で7年目の開催。県内の小学生と保護者が、モーターの回転運動を前後の往復運動に変換する「クランク」の仕組みで2足歩行する恐竜の模型の製作を楽しんだ。

作業の手順や工具の扱い方について同学園生が丁寧に説明。模型を完成させた児童は、「ネジを付けるところがとても難しかったけど、完成させることができうれしかったです」と感想を話した。

ある学園生は、「作り方や道具の使い方を分かりやすく教えるため、専門用語を使わないように意識しました。子どもたちに楽しんでもらえたみたいで良かったです」と話した。

高校生・教員・企業が意見を交わす 令和元年度高校生のための合同企業説明会

令和元年度に高校を卒業する生徒が対象の「令和元年度高校生のための合同企業説明会」が7月、県内6カ所で行われた。

7月9日にホワイトキューブ(白石市)で行われた説明会では、県南地域の企業と団体、高校生が参加。生徒は希望する企業のブースで企業の担当者の説明に耳を傾けた。

あるブースを訪れた生徒は、「福利厚生や教育プログラムが整っているところに魅力を感じました。これ



参加した企業の関係者は、社案内や製品を手に自社の魅力を説明した



仙台会場では、多くの採用担当者と高校生が集まり、熱気に包まれた

からの就職先選定の参考にしたいです」と話した。

企業の採用担当者は、「多くの高校生に関心を持ってもらえて、手応えを感じています。是非、採用につながりたいですね」と話した。

この日会場では、高校の教員が地元企業の採用担当者や意見交換をする「企業と高等学校教諭との就職懇談会」も行われた。